

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 23

アメリカ探索録～RUBeC～

岡田 周大

Shuta OKADA

数理情報学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は8月15日から8月31日の期間にカリフォルニア州においてRUBeC演習に参加してきた。RUBeC演習とは、理工学研究科の大学院生を対象とする科目で、バークレーにあるRyukoku University Berkeley Centerという施設で行われる。この科目では、テクニカルライティングと英語のプレゼンテーションの学習などを行う。今回はRUBeC演習の活動内容について報告する。

2. 事前準備

RUBeC演習を受講するにあたり、事前に研究に関するA4用紙1枚文の要旨文とPower Pointを英語で作成しなければならなかった。高校以来まともに英語の文章を作っていなかったため、私にとって要旨文を作成することは大変骨の折れる作業だった。最初は文法的な誤りも多く、乱雑な文章を書いていた。しかし、担当教員に作成した文章を確認していただき、ご指摘いただいたおかげで、徐々にだがまともな英語の文章が作れるようになったと思う。

3. 授業内容

授業は月、火、木、金曜日にあり、英語で論文を書くためのスキルを磨くテクニカルライティングの授業と英語での発表のスキルを磨く英語プレゼンテーションの授業を受けた。どちらの授業もネイティブスピーカーに教わった。

3.1 テクニカルライティング

テクニカルライティングでは、自分の研究に関して論文を英語で書く際にどのような点に気をつけな



図1 テクニカルライティングの授業風景

ければいけないかについて教わった。勉強した内容は、単数形、複数形、時制による動詞の変化、接続詞といった基本的なことだ。ただ、先生が話す言葉も質問する場合も全て英語で説明しないといけないのがとても難しいと感じた。

3.2 英語プレゼンテーション

英語プレゼンテーションでは、英語での口頭発表の能力を磨くために、発音やイントネーションについて習った。ネイティブからすると、日本人の英語は文章を同じ波で読むため、何が文章の中で重要なのか分からないみたいだ。ネイティブは文章の中で自分が伝えたい部分を強調するように言葉を発するというのを知った。英語の発音、アクセント等に関しては、何度も反復して練習しないと中々理解することが出来ない。英語の中でも基本的なことなのだが、日本人にとってはこれらのことはとても難しいことなのだろうと思う。また、この授業では、プレゼンテーションのスキルを磨くため、聴衆に分かりやすいスライドの作り方や相手を惹きつけるためにどのようなアクションを取るといいか等について教わった。

4. 企業・協定校訪問

一週目の水曜日には、電子計測業界の企業を訪問し、製造工程を見学させていただいた。二週目の水曜日には、協定校のUC Davisを訪問した。訪問先

で学んだこと、感じたことについて述べる。

4.1 Keysight Technology

Keysight Technologies（以下キーサイト）とは電子計測メーカーとして、無線、モジュラー製品、ソフトウェアソリューションの技術革新を推進し、新たな計測手法の構築に取り組んでいる企業だ。2014年に化学分析機器や電子計測機器の開発・製造等を行う Agilent Technologies が、電子計測事業の事業を分割したことにより誕生した。訪問先では、基板・半導体素子、製品の外側のプラスチック部分の製造工程について見学させていただいた。私が一番驚いたのは、キーサイトの製品のオシロスコープ等の外側のプラスチック部分は、3D プリントを利用して製造していることだ。近年話題になったばかりの装置なので、すでに企業で利用されているものだとは思わなかった。

4.2 UC Davis

UC Davis はカリフォルニア州デービス市に位置するアメリカ合衆国の州立大学である。カリフォルニア大学に属する 10 校のうちの 1 つの大学である。QS 世界大学ランキングでは農林業や獣医学部門は第 1 位である。私は研修地にバスで着いたとき、そこが大学なのかどうか分からなかった。なぜなら、キャンパスが非常に広大で、馬を利用して移動する者さえいたからだ。交流を通して聞いたことなのだが、キャンパスを横断するのに徒歩で 30 分ほどかかるみたいだ。校内には、ボーリング場やスポーツセンターがあったりする。日本の大学にそのような施設がある話は聞いたことがなかったので、その話を聞いた時は驚いた。施設はとても充実しているが、それを更に拡張させようと常に工事を行っているみたいだ。いつも工事のためか UCD を（Under Construction Davis）とも呼ぶようだ。講演の後、研究室を見学させていただいたのだが、日本の大学の研究室とあまり変わらないように感じた。ただ、

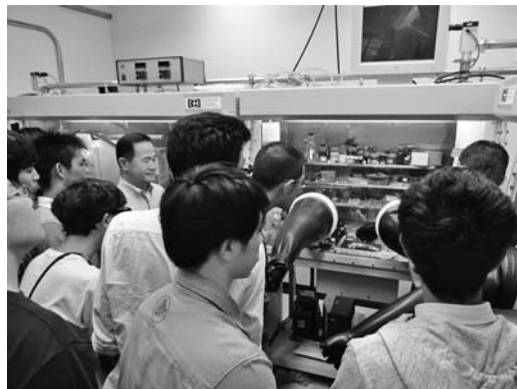


図 2 化学分野の研究室を見学している様子

現地の学生が研究に関して議論している場を見て、研究に対する意欲が高いと感じた。

5. おわりに

今回の研修でアメリカという日本とは異なる環境で 2 週間真剣に英語に取り組んだ中で、自分の意志を伝えることの大切さ、難しさを実感した。これをきっかけにして、外国人とよりコミュニケーションが取れるように語学力の向上に取り組みたいと思う。最後になりましたが、RUBeC 演習にあたって、お世話になった富崎先生、大津先生、宮武先生に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

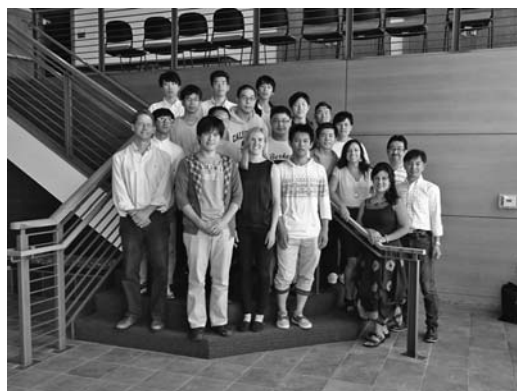


図 3 RUBeC にて、演習参加者と現地の先生との集合写真